



AA日本ニューズレター

NPO法人AA日本ゼネラルサービス (J S O)

No.138

今苦しんでいる仲間に「手を差し伸べる」@アジア・オセアニア

第8回 AOSM (バンコク・タイ)

WSM 評議員 まさよ

第8回アジア・オセアニア・サービスミーティング(以下、AOSM)が7月24日(金)から26日(日)、タイの首都バンコクで開催されました。テーマは「手を差し伸べる」(Reaching Out)でした。AOSMは2年に一度西暦奇数年にアジア・オセアニア各国の評議員が集い、今も苦しんでいる仲間の手助けをよりよく行う方策を探るための分かち合いです。因みに西暦の偶数年には世界の評議員が集うワールドサービスミーティング(WSM)が開催されています。

今回は10カ国からの計18名(ブータン、タイ、フィリピン、極東ロシア(1名)、インド、オーストラリア、ニュージーランド、香港、シンガポール、日本(私1名))の評議員が参加しました。ブータンはAOSMとオーストラリアからの支援を受けて初参加です。加えて事務局長(オーストラリア)、議長(ニュージーランド)各1名と議決権はありませんが、オブザーバーとして合衆国/カナダGSO新所長のフィリス氏と前国際担当の計22名の仲間が3日間、時には議論が脱線する程、熱く分かち合いました。そして会議の席上だけでなくお食事の時、会議後の観光の時と、伝統、ミーティングの進行方法等々について、分かち合いは続きました。



アジア・オセアニアは英語国のオーストラリア、ニュージーランドを除くと残念ながらAAの後発後進地域です。北はロシア西部から南は太平洋地域を含むその広大な領域には66カ国があるそうですが、その中でAAの連絡先がある国は39カ国に過ぎません。さらに評議員を派遣できるほどメンバー数が多く献金にゆとりがあり、かつサービス活動が活発な国は現在のところこの10カ国に過ぎないのです。

そもそもこのような国際的な分かち合いはなぜ行われるようになったのでしょうか?共同創立者のビルW.が1950年代に当時プログラムが伝わったばかりのヨーロッパ諸国を旅行した際にそれぞれの国が北米の初期に経験したのと同じような問題、つまり(自分たちの言葉での)書籍の発刊や将来に対する恐れなどに直面しているのを目にしました。国際的な経験の分かち合いができたなら各国のAAの発展が促進されるであろう、そして逆三角形の原理に反し、本部のような役割を果たしてしまっているアメリカ/カナダのGSOも願わくは多くのオフィスの中のただの一つに過ぎなくなる日が来るであろう、とひらめいたのです。1969年に第1回WSMが開催され、以後1971年から2年に一度開催されています。

そしてWSMが開催されない年にはそれぞれの地域での分かち合いが行われます。AOSM以外にも今年アメリカ大陸ミーティング(第16回REDELA)、ヨーロッパサービスミーティング(第14回EMS)、サハラ砂漠以南アフリカサービスミーティング(第4回SSASM)と西アフリカサービスミーティング(WCASM)が開催される予定です。これら地域帯ミーティングは分担金を負担できないなどの理由からWSMに評議員を派遣できない国々がWSMとつながる道を提供する、AAの一体性のために貴重な機会となります。

ビルの想定通り、アジア・オセアニアでも各国は同じような問題を抱えています。日本でもメンバー数の伸び悩みが年来の問題ですが、今回「手を差し伸べる」がテーマとなったように他の国でも同様のようです。例えばメンバー数が地域内最多のオーストラリアでも、先住民にプログラムが広がっていかない、ヤングや女性がつながらない、つながっても長続きしないなどの問題があり、ここ数年メンバー数が停滞しています。オーストラリアの評議員は積極的な広報活動などの努力をとにかくあきらめずに続けていくこと、もしその努力を怠れば停滞どころか、メンバーが減ってしまうのではないかと懸念を分かち合いました。

そして次回のテーマは「目的の単一性」です。ご存知のように「AAの目的は今苦しんでいる仲間にメッセージを運ぶこと」のみであるという「目的の単一性」はAAの基本原理のです。伝統5に「靴屋よ、汝の本分をはみ出すな」とあるようにAAがアルコール以外の問題に関わるとアルコールからの回復というその本来の有効性を失っていつてしまうことは過去の経験が示しています。しかし各国で治療施設からアルコールには問題がない他の嗜癖者が送り込まれ、しばしばミーティングが

混乱をきたしています。それゆえこのテーマに決まりました。

ところで前回の AOSM は 2007 年に埼玉県嵐山で開催され、同じく海外から約 20 名の仲間をお迎えしました。関東を中心とした 20 名弱の仲間の献身的な協力のおかげで「どうにか」無事に終えることができました。メンバー 5,000 名の日本ですら、「どうにか」だったのですから在外国籍（＝タイに住むアメリカ人、オーストラリア人等）中心で 500 人だというタイでの開催。正直、私はあまり期待していませんでした。しかしその予測は見事に裏切られました。空港へのお迎えから会議ファイルの作成まで、適切に配慮して下さいました。それも嵐山での私たちのように青息吐息ではなく-水面下ではいろいろあるのかもしれませんが-前例踏襲にこだわり

「AOSM はこうあるべき」みたいな無理はせず、リラックスして今できる範囲のことにベストを尽くす、といった感じで実において楽しげです。これぞ”Easy Does It”でしょう。ほとんどが定年退職し時間の自由になる仲間とは言え総勢 10 名弱でどうしてここまでできるのか？ソプラエティの厚み（一説によると平均ソーパー 25 年とか・・・）のなせる業なのでしょうか？仲間の一人は「AA のおかげで定年まで元気に働かせてもらったのだからお返しをしないとね」とおっしゃっていました。

次回第 9 回 AOSM はインド北部での開催が決まりました。インドでは初の開催となります。すでにバンコクの仲間とコンタクトを取り合い、開催の準備が進められています。なお AOSM では議題が通年受付となりました。次回、話し合ってきて欲しいことがありましたら是非、JSO までお寄せ下さい。よろしく願いいたします。

地域からのニュース

AA 第 5 回中部北陸地域・広報フォーラムを開催して

中部北陸地域広報・病院施設委員会

8 月末にもかかわらず、秋晴れの爽やかな天候に恵まれた 2009 年 8 月 23 日、富山市内の会場で地域広報委員会主催の広報フォーラムを開催した。

中部北陸地域の広報フォーラムは、愛知地区から始まり、岐阜、静岡、福井で開催し、全国病院施設・広報フォーラムを開催した石川を含めると、富山での開催は地域内最終地点だった。富山地区は、AA メンバー数も少なく、定期的ミーティングの開催や AA グループの活動もままならない状態となっている。「この地区に何か手助けとなるフォーラムを開催できないか」という気持ちで準備を開始した。地域の広報委員会は委員 3 名と連絡員 3 名の小グループで、私たちは「AA を知らない地区で AA を知ってもらう機会を作る経験がない」という現実に直面した。全くの言い訳に過ぎないが、私たち（広報委員）は愛知のメンバーだし、時間がないし・・・準備はほとんど後に持ち越された。特に富山県の医療や行政関係者への案内は、富山市民病院にメッセージを運んでいる石川地区メンバーに協力してもらおうどころかお任せ状態と

なった。さらに言い訳をさせてもらおうと、一度は日にちを決めて行く計画を立てていた。しかし行くメンバーの一人は病気で入院し、もう一人は家庭の事情で出かけられなくなった。開催日は迫ってきて、何とかフォーラムで話して頂く方々をお願いし、会場を手配した。

地域が違う新潟のメンバーにお話をお願いしたのは、富山の近隣という理由ではなかった。新潟では広報フォーラムをきっかけに、新たに AA グループを作る活動をしているという話を聞き、是非その経験とエネルギーを分かち合いたかったからである。

当日、あまりにも不十分な準備での幕開けに、内心冷や冷やしながらの開催となった。地元の医療関係者 2 名、行政関係者 2 名、家族 1 名が参加された。AA メンバーの参加は 30 名（富山 3 名、石川 8 名、福井 2 名、新潟 3 名、関東 1 名、静岡 1 名、愛知 1 2 名）だった。関係者への広報が不十分だったことを反映した結果だった。メンバーの参加は予想外に多く、前回の広報フォーラム開催地である福井地区 AA メンバー参加もあり、フォーラム会場内は思いの外の賑いとなり、思わずほっとした次第だった。

富山の医療や行政関係者のお話から、富山での AA の様子や、医療や行政がアルコール問題に取り組んでいる様子を知ることができた。そのお話の中、精神科の先生が、『アルコールに問題がある患者さんが、その自助グループに参加しないのは、そのグループに魅力がないからでしょう』と話されたのが印象的だった。こうした率直な意見を下さる医療や行政関係の皆様と協力しながらやっていくことが大切だなと思った。

参加した私たちは興味深い話を聞き、仲間とも会い、楽しめたが、「富山の地域の人たちに AA を知ってもらう」という広報フォーラムの本来の趣旨から考えると、大いに問題があった。最初に挙げられるのは、富山での広報不足である。中部北陸地域の現状を考えると、広報委員会メンバーだけで準備することに無理があったと思う。次回からは実行委員会を作り、いろいろなメンバーが準備段階から参加しやすいやり方にしてはどうかという意見も出ている。第二には、広報フォーラムの内容が、参加したもらう関係者にとってどうだったかという点である。質疑応答では、AA メンバーから関係者への質問が殆どだった。AA に関する質問を参加して下さった関係者から出してもらえる会にする必要があると思った。そのためには事前に、医療・行政関係者が AA の何を知りたいかについて事前調査をする必要があると思った。

いろいろ問題はあがあるが、今回の経験と関東のメンバーの話から『如何に自分達が新しい場所へメッセージする経験が不慣れか』をはっきり知ることができた。今回の経験を活かし、地域内の AA が少ない地域での広報活動を援助できる広報委員会に育っていききたいという妄想にふけている。

今回の広報フォーラムに協力して下さいました皆様、本当にありがとうございます！！

このフォーラムをきっかけに、富山地区への手助けを、皆さんと一緒に考えていきたいと思っております。よろしく願います。

'09 東北ラウンド・アップ IN 沼尻

RU実行委員会 福島地区ケイジ

昨年の春を過ぎた頃、福島地区 15 周年記念として「東北ラウンド・アップ」の開催が議決されました。

その後、実行委員長の推選を受け、相当の不安があるなか、断らず引受させてもらったのは昨年の7月でした。不安の中身は、自分の良くない部分をさらけ出してしまおうであろうこと、が何となく解っていたからです。(言いかえれば、それまで自分の良くない部分があると解ったまま、ほったらかしのソブラエティーであったこと?かな^{^^}、おかげで止めてからの4・5をさせてもらいました)

参加させてもらう立場からいつの間にか主催させてもらう側へ。参加させてもらう喜び・嬉しさなどは私なりに何度も経験させてもらい、今度はその良き経験をできれば活かしたいと心に秘めていました。

これらの不安やら思いを率いたなか、17 回の実行委員会を経て、様々なことを経験させてもらい、あつと言う間?に当日を迎え、無事終えることができました。

途中から北海道RUが同日開催と知り、参加人数についての懸念が出たりもしましたが、申込者は当日参加を含めると 80 名を超えて予定数をも十分満たす結果となりました。

参加できなかった仲間たちも含め、来てくれた仲間たち本当にありがとうございました。

仲間たちの「表情」や「声」に勇気をいただき、懐かしさも湧いてきて、色で表現するなら「嬉色」に染め上がりました。

宿は初めて利用させてもらう老舗の温泉宿であり、人口 16,000 人ほどの猪苗代町の山間にあり、自然豊かなところ。下見の段階で AA パンプ類数冊を渡してからの交渉でしたが、自分たちに興味を持つ気配はあまりなかったように感じます。閑散期のお客側なのに何だか思うようにならない「この思い」は考えてみればとても貴重であり、実行委員会としてとても良い経験をさせてもらったと思います。

過去における宿泊の際、興味を深く示されたことでどれだけの安心感を与えられたことか、それが自分たちにとっての一般的なサービス度合いの目安になると感じていましたから。

しかし、設備がある程度整っていて、病名を公表し、アルコールを注文せず、しかしお湯は大量に消費し、加えて騒々しい自分たちをツテナしで快く受け入れてくれる宿との出会いの始まりは、意外とこのような感じなのかもしれないですね?!

今回の実行委員会メンバーは 11 名で、ソーバー1~2 年の仲間が割合的に多く、捉えどころの違いなどを持ち合わせたなかでの進行となりましたが、才能に恵まれた仲間が多くおり、何度も驚かされ、また役割輻輳のなか責任を担い、当日も裏方さんを含め大活躍してくれて本当にすばらしいと思いました。

参加者にも色々ありがたい手助けをいただき、声をか

けてもらうなど、かえって心温まる思いをさせてもらいました。事後の委員会も秋晴れのなか、にこやかに終了し、「やって良かった」と嬉しい声が聞こえてきたり、ゆとりを感じる雰囲気となりました。

ソブラエティーのなか、成功とは自分の思い描いた夢が叶うこと...ではなく、ハイヤーパワーが与えてくれる様々な出来事を乗り越えることができることなんだよきっと、と今更ながらに実感してみたり。

自分からは見えない部分に、成長・回復のエキスがたくさん貯蔵されていることは露知らず(欺瞞も含め)、自分が思い描いた夢を見続けたくて、成長・回復とは別方向へと向かいたがるのでしょうか。

成功に向かうためには楽しさ・嬉しさが必要であることもさることながら、自分の誤った方向に「待った」をかけてもらっていたことを、役割を進めるなかで気づかせてもらったような気がします。

「これで良いんだア!」から「これじゃいけないよ」へ気づいたからには変える行動へ移さなきゃなあ。

2009 年度北海道地域RU実行委員長を経験して・・・

苫小牧グループ ミホ

約 9 ヶ月準備してきたラウンドアップが、9 月 3・4・5 日に無事開催されました。

今は、ホッとしております。参加していただいた皆様、ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。そこで、感じた事を、お伝えしたくペンを執りました。

最初はわからない事が多く楽観的でしたが、仲間の配慮もあり、段々と自分の役割が見えてきました。準備が進むにつれ、痛感したのは私の欠点でした。

- ・きちんとやらなければと焦る。
- ・病的に細かい部分が気になる。
- ・一人で抱え込んでしまう・・・etc.

不安と緊張で胃がキリキリと痛みました。でも、そこにあったのは仲間の愛でした。悩みに悩んで、朝早い電話を受けてくれた仲間。プログラムなどの印刷中、焦り出す私に、「ゆっくりやろう。もし終わらなかつたら、明日俺たちやるよ」「コーヒーを飲みなさい。手を止めなさい」と声をかけられハッとしたこと。その時のみんなの笑顔が今でも浮かびます。細かい事を自分で決められず(選べない)突然の電話に嫌な顔せず(電話だけど)一緒に考えてくれた事。私が悩んでいると電話やメールをすぐにくれて嬉しかった。みんなありがとう。助かったよ。

準備段階では、広報の依頼や当日ボランティアを快く引き受けていただき、「実行委員長大変だな!がんばれよ」の暖かい言葉に感激しました。実行委員長をやらせてもらってよかった!と感じました。

当日、会場に着くと、予定していたテーブルが壊れていたり、スピーカー依頼をしていなかったことに気づき、走り回ったこと。予定外のトラブルにみんな協力して動

いてくれる。最後まで一緒に走り回ってくれた仲間もいる。当日ボランティアの方たちもほぼ私たちと同様に動き回ってくれました。すべてが素晴らしい経験になりました。私の準備の甘さや、皆と当日の打ち合わせが足りなかった事は、反省点ですが、みんなはそれでも文句も言わずフォローし、一緒に頑張ってくれました。感謝！！準備段階も、みんな大変だったけれど、今となっては、良かったなあと思います。

私は酒乱で、家族や友達、警察にまで迷惑をかけていました。精神科の入院で人生終わったと絶望的だった私。人とうまくやれない私。いつも寂しかった。自分の事しか考えられず、全てを周りのせいにし飲んだくれてた私。怒りと恨みでいっぱいだった私。そんな私に、AAは仲間とプログラムをくれました。素晴らしい仲間に出会え、助けてくれ、悩みを聞いてくれ、未熟な私に実行委員長をやらせてくれた。まさか、こんな日が来るなんて！！だから、今回は一生懸命やろう、やれることすべてやろうと思いました。皆様のおかげで、大満足で終える事ができました。

私はこの経験から愛と寛容をもらう事で、私も愛と寛容を少しは身についたかなと思います。今まで以上に皆の事が大好きになりました。大切に思えるようになりました。この感動を、多くのメンバーに体験してほしいと心から思います。素晴らしい経験と、出逢いに感謝しております。神様からの贈り物です。ありがとうございます。

AAメンバーからの質問がニューヨーク GSO アーカイブデスクに到着！

[NY GSO 発行 Marking (アーカイブ便り)
vol.28No1Spring2008 より翻訳、一部転載]

NY・GSOにはアーカイブ（記録や資料の整理と保管をする）デスクがあります。1年間に1,900件以上の問い合わせや、情報提供などが寄せられています。直ぐにお答えできるものから何時間も調べなくてはならないものまで広範囲に及んでいます。AAの歴史や資料についてのご質問があれば、どうぞ遠慮なくお知らせください。（地区や地域のアーカイブ担当にもどうぞ）

とてもよく受ける質問をまとめて見ました、このような「よくある質問」は今後も掲載して行きます。

質：丸に三角のロゴの由来は何でしょうか。

答：「正三角形を囲む円」というシンボルマークが長年にわたり共同体（Fellowship）の中で使われてきました。1955年セントルイスで開催した国際コンベンションで正式なAAシンボルマークとして採用され、その時点から共同体（Fellowship）の中で広く使われてきました。AAの共同体（Fellowship）にとって、

三角形のそれぞれの辺は、3つの遺産「回復・一体性・サービス」を表し、円（丸）がAAの世界を意味していました。

ビル・Wの1955年のスピーチの中でシンボルの採用をこう話しています。

サービス：第三のレガシー

「私たちは今、AAの二十周年記念式典の最後のプログラムのためにここに集まっている。

私たちの頭上には三角を円で囲んだAAの新しいシンボルを銘記した横幕がひるがえっている。

この円は全世界のAAを意味しており、三角はAAの三つのレガシー（遺産）、つまり、回復、一体性、サービスを表したものである。このすばらしい新世界の中で私たちはあの致命的な強迫観念から開放された。この独自のシンボルを私たちが選択したのは、おそらく偶然ではない。古代の僧侶や予言者によれば、三角を囲む円は悪魔を防ぐ意味があるそうだが、このAAの円と、回復、一体性、サービスという三角は、私たちにとってははるかに多くの意味を持つ。」

AA成年に達する p. 212より

しかしながら、1990年の始め頃より、文書、レターヘッドなどにこのシンボルマークを載せることは順次やめていくことを、ワールドサービス社が決めました。1994年には、評議会はずべての評議会承認出版物にこの円に三角のロゴを使用しないことを決議しました。ただ、そのシンボルマークはいまだにAA（並べに多種の12ステップ回復団体）との結びつきは残り、世界中のAAメンバーたちにとって特別な意味を持つものとなっています。

「もともとAAに由来せず、またAAによって承認されていない品物やサービスにこれらのマークを使用することは、法的にはAAのマークを侵害することになり、弱めることにもなります。その結果として受ける損害は、AAはマークで象徴されていますから、そのマークとAA自体が、AAの中のものでもなく、AAの目的にも矛盾しているさまざまな製品やサービスと関連付けられるということです。これはAAのマークの、アルコールクス・アノニマスのシンボルとしての意味と重要性を失わせる原因になってしまうでしょう。」

（サービスマニュアル p. 124より）

改訂版発行のお知らせ

JSO 出版局

『AA以外の会合で話をするには』（A4版/100円）の改訂版が発行されることになりました。本文と紙の色が変更になります。さまざまな機関から、AAの情報提供の要望が寄せられるようになりました。AAとして慎重に行うことができるよう、ぜひ積極的にご活用ください。

編集・発行： NPO 法人 AA 日本ゼネラルサービス (JSO)

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 4F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.aajapan.org> jso-1@fol.hi-ho.ne.jp

(月～金) 10:00～18:00 (土・日・祝) 休